



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



2019年6月22日発行 第12号

ワシントン日本語学校
校長 森 宏 介

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

座談会を開催しました

6月15日、午前9時30分より、カフェテリア1で、校長主催の座談会を開催しました。今回のテーマは、「共に考えましょうー補習校とそのあるべき姿ー」。グループごとにざっくばらんに意見を出し合いながら相互理解を深めました。

「補習授業校とはどんな学校か」についてキーワードで整理すると、「日本語（教科）」「日本文化」「グローバル人材」「多様性」「ネットワーク」「要サポート」「忍耐」等でしょうか。実に様々で面白い意見が出されました。最近、放課後活動が盛んになってきたことや親の協力で成り立っていること、その結果、親子共々学ぶことができる、本校の特長として、図書館や特別授業が充実していることや保護者に有能な人が多いこと、校舎の統合、国語コース別学習や二学期制の実施など、年々進化を続けていることも話題に上りました。

「ワシントン日本語学校に何を望むか」については、概ね右に記した通りです。教員研修の充実や先生とのコミュニケーション機会を増やすこと等の意見もいただいています。

締めくくりにあたって、「私に何ができるか」について話し合ってみました。一番多かったのが家庭でのサポートです。当番にも「もっと頑張れますよ」という意見とは裏腹に、役割が多すぎるという声も出ています。

参加者から出された意見・考え

補習授業校とはどんな学校？

- ・帰国児童生徒に学年相当の学力をつける学校
- ・グローバル人材の卵(生徒)にとって不可欠な学校
- ・日本語を学ぶことができるありがたい学校
- ・日本語と共に日本文化を身につける学校
- ・様々な背景をもつ生徒が集まる多様性のある学校
- ・日本語を話す友人と過ごす大切な時間がもてる学校
- ・日本人のネットワークをつくることができる学校
- ・先生と保護者が一体となってサポートする学校
- ・子どもと共に親ががんばる学校
- ・親の忍耐が必要な学校
- ・先生や事務局、運営委員会ががんばっている学校
- ・金曜の夜、子どもが準備に追われる学校

ワシントン日本語学校に望むこと

- ・明確な教育方針をもって運営してほしい
- ・様々な子どもを受け入れる学校であってほしい
- ・興味をもって学べる授業を行ってほしい
- ・授業時間を大切にしてほしい(テストは極力少なく)



読書のススメ

一般に読書好きの子どもは、語彙力や読解力、表現力や論理的思考力に優れています。本を読むことによりそれらが鍛えられるからです。読書の効用はそれに止まりません。多くの本を読むことで世界は広がりまし、場面や情景を思い浮かべながら読むことを通して「想像力」を鍛えることもできます。日本語学校の児童・生徒の皆さんには、日頃から読書に親しんでもらいたいものです。

「我が子を読書好きにしたい」とお考えの方は多いことでしょう。私もそれを願っています。そのために、次の事を実践してみませんか。

其の1：読書環境を整える

毎日、テレビやゲームから遮断された一定の時間をつくります。そして可能な限り本に囲まれた環境をつくりましょう。

其の2：積極的に読み聞かせに取り組む

「本を読んで」というおねだりは絶好のチャンスです。何度も読み聞かせると、子どもは暗唱できる程に話を覚えます。そうなれば、お話に触れたいという欲求が高まり、自然に本へと向かうようになります。

其の3：好きな本を読ませる

どんなに読書好きの人でも読みたくない本を無理やり読ませられるのは苦になります。我が子に苦行を強いるのは得策ではありません。

其の4：学校の図書館へ連れていく

本校の図書館の充実度は補習校の中でも群を抜いています。通常1回につき3冊までですが、夏休み前は5冊（1家庭10冊）まで借りることができます。



父の日のプレゼントづくり

6月16日は、父の日でした。幼稚部の子どもたちは、大好きなお父さんのために特製の帽子をつくりました。私も、学校のお父さんとのことで帽子をプレゼントしてもらいました。



小学部でもお手紙等のサプライズがあったとか！



みんなで記念撮影

初任者研修を実施

6月15日の授業終了後、ワシントン日本語学校で始めて教壇に立つ11名の先生方を対象に「初任者研修」を実施しました。

わかる授業・学ぶ喜びを味わうことができる授業を展開するためには、子どもの実態を的確につかむとともに明確な目標を定め、実態に即した単元計画を組み立てることが大切です。今回は、3年生の題材「ちいちゃんのかげおくり」の模擬授業を通して、授業における指導上の留意点について、算数・数学の学習においては、既習内容とそのつながり（系統）を把握し指導に当たる事の重要性について学びました。

また、学習が成立するためには、その基盤としての学習規律の確立（生徒指導）が重要です。経験豊かな佐藤教頭を講師に、生徒指導の要点についても学びを深めました。